

2013（平成 25）年度

新宿自治創造研究所 活動報告

2014（平成 26）年 3 月

新宿区新宿自治創造研究所（SHIPS）

個と全体

新宿自治創造研究所（英文名称 Shinjuku Institute for Policy Studies、略称 SHIPS）は、区職員が学識経験者等と連携して区の重要な政策課題について調査研究を行うとともに、研究活動や人材育成事業、情報発信等を通して、職員、ひいては区全体の政策形成能力の向上を図ることを目的に2008（平成20）年4月に設置した自治体シンクタンクである。発足後6年目にあたる2013（平成25）年度の活動報告を行うにあたり、以下のメッセージを送る。

個別には良くても、全体としては具合が悪くなってしまうということがしばしば生じる。例えば、鉄道駅の階段で、右側通行ととくに指示されていなければ、各人が右側を歩こうが左側を歩こうが自由である。通行者の人数が少なければあまり問題も発生しないが、通行者数が増えて、階段を上る人と下る人が大勢行きかう状態の場合には、衝突や転倒などの事故が発生する可能性が高まる。したがって、常に通行者数が多い場所では、右側通行もしくは左側通行の誘導や規制が必要となる。

人口の増減や長期的な傾向は、国勢調査などのデータを利用して、ある程度の予測は可能であるが、個々の人々がどのような選択と行動をするかを予測することはなかなかむずかしい。現在、当研究所で研究課題の一つとして取り組んでいることが人口の動向と単身者の動向である。どの自治体も共通に抱える課題ともいえるが、それぞれの自治体では事情が異なる点もあるので、新宿区としても取り組む意義はある。

個人として、法の下、どのように生きようが自由である。ところが、各人が自由に行動した結果、社会全体としては必ずしも良くない状況やむずかしい問題を発生させることがある。居住、職業、医療、保育、教育など、人口動向を適切に把握しながら施策を進めて行くことが期待されている。今後も、個と全体の問題のことなどを考えながら、研究所としても量的ならびに質的な観点から調査研究に取り組んでいきたいと考えている。

最後になるが、研究活動や人材育成事業においてご指導いただいたアドバイザーの諸先生方、データ提供や聞き取り調査などにご協力いただいた区や関係団体の職員、区民や団体の皆様などをはじめ、多数の方々のご支援とご協力に対してお礼を申し上げる。

新宿自治創造研究所所長
金 安 岩 男

2014（平成26）年3月

目次

1	研究	4
2	講演会等の開催	5
3	SHIPS通信の発行	6
4	SHIPSサロンの開催	7
5	学会等への参加	8
6	他自治体等との交流	9
7	新宿区自治フォーラム2014	9
8	マスメディアへの掲載等	10
9	資料	11

1 研究

(1) 研究テーマにかかる研究

① テーマ

2012（平成 24）年度から 2 年間は、区の政策立案の基礎となる人口・世帯に関する調査研究を行うこととし、2012（平成 24）年度は「国勢調査データからみる新宿区の特徴」と「国勢調査に基づく新宿区将来人口推計」を、2013（平成 25）年度は 2012 年度の研究を引き継ぐ形で「単身世帯の実態」と「人口動態分析による新宿区の将来像」をテーマに設定した。

② 研究の進め方

研究所の副所長、研究員 4 人及びテーマ別アドバイザーからなるワーキング・グループ検討会議（以下、「WG」）を随時開催し、研究方針の設定、データの整理・分析、研究の進行管理等を行いながら調査研究を行った。単身世帯WGは、宮本みち子放送大学教授をアドバイザーとし、計 10 回（5/9、6/13、7/9、8/8、9/6、10/17、11/28、12/16、1/24、2/21）開催し、人口動態分析WGは、大江守之慶應義塾大学教授をアドバイザーとし、計 4 回（5/16、7/18、8/27、10/21）開催した。

③ 研究の成果（研究所レポートの発行）

テーマごとにWGでの検討結果を踏まえ、研究結果をまとめ、2014（平成 26）年 1 月に研究所レポート 2013 No.1「国勢調査に基づく新宿区将来人口推計－地域別推計－」（48 ページ）を、同年 3 月にNo.2「国勢調査に基づく新宿区将来世帯推計」（48 ページ）とNo.3「新宿区の単身世帯の特徴－壮年期を中心として－」（40 ページ）を発行し、区ホームページでPDFデータを公表した。

・「国勢調査に基づく新宿区将来人口推計－地域別推計－」

前年度に算出した新宿区将来人口推計をベースに地域別（10 の特別出張所地域別及び 30 の小地域別）の人口推計の算出に取り組んだ。延床面積 5,000 m²以上の大規模住宅開発の推移を踏まえ 2035 年までの地域別、5 歳階級別の推計値を算出し、レポートにまとめた。

・「国勢調査に基づく新宿区将来世帯推計」

新宿区将来人口推計をベースに家族類型別の将来世帯推計の算出に取り組んだ。2035 年までの新宿区全体、特別出張所地域別、世帯主 5 歳階級別の推計値を算出し、レポートにまとめた。

・「新宿区の単身世帯の特徴－壮年期を中心として－」

統計データ分析、区民意識調査結果分析（単身者と同居人ありの比較分析等）、壮年期（35～59 歳）の単身者（22 人）へのヒアリング調査結果分析を行い、新宿区に住む単身者の全体的な特徴について壮年期を中心にレポートにまとめた。

(2) 意見交換会の開催

情報共有及び研究所活動全体の調整を目的として、研究員、アドバイザー等による意見交換会を開催した。

日 時：2013（平成 25）年 4 月 11 日（木）14 時～15 時

会 場：区長室会議室

参加者：金安所長、宮端副所長、牧瀬・大江・宮本各アドバイザー、全研究員

内 容：平成 25 年度の事業スケジュールの確認及び各テーマ別の研究方針等について意見交換を行った。

(3) 研究所勉強会の実施

研究所メンバーの能力アップを図るため、所長やアドバイザーによる演習を中心とする「研究所勉強会」を実施した。

- ・第1回 2013（平成25）年4月24日（水）13時30分～14時30分
内容：金安所長による演習「零の発見一色即是空、空即是色？」
- ・第2回 2013（平成25）年5月13日（月）10時30分～11時30分
内容：牧瀬アドバイザーによる演習「地域活性化を考える～事例紹介からヒントの提供」について
- ・第3回 2013（平成25）年5月28日（火）11時～14時
内容：金安所長のガイドによるまち歩き「四谷地区の文化・歴史探索」
- ・第4回 2013（平成25）年6月3日（月）11時～12時
内容：金安所長によるまち歩きの振り返り「四谷地区の文化・歴史クイズ」
- ・第5回 2013（平成25）年6月11日（火）11時～12時
内容：金安所長による文章力講座「追悼文を例とした簡潔な文章の書き方」
- ・第6回 2013（平成25）年11月5日（火）11時～12時
内容：金安所長による演習「現在と将来の状態変化の4象限分析」
- ・第7回 2014（平成26）年2月3日（月）10時30分～11時30分
内容：金安所長による演習「学問の存在と自治体運営での可能性」
- ・第8回 2014（平成26）年3月17日（月）10時30分～15時
内容：金安所長による個別面談「25年度の課題達成度と26年度の目標」

2 講演会等の開催

（1）第1回職員向け講演会

日時：2013（平成25）年7月9日（火）15時～17時

会場：第一分庁舎6階研修室

講演：「東日本大震災を踏まえた協働型リスクガバナンス～自治体の防災情報戦略と防災危機管理のあり方」

講師：長坂 俊成 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科社会学部教授

趣旨：職員研修の一環として、区職員が新たな発想、幅広い知識を学び、政策形成能力を向上させることを目指す。

参加者：区職員等（区長含む）57人（うち研究所は、金安所長、針谷担当部長、宮端副所長、研究員4人）

内容：東日本大震災時に被災地支援のための情報提供システムを立ち上げた際の経験や教訓を伺い、リスクガバナンス、防災情報戦略等について学んだ。

満足度：参加者アンケートによる講演の満足度は、「満足」と「まあ満足」を合わせて72%

（2）第2回職員向け講演会

日時：2013（平成25）年12月16日（月）10時～12時

会場：本庁舎5階大会議室

演題：「若者が自立できる環境をどう作るか～孤立する若者の増加をみすえて」

講師：宮本 みち子放送大学教授

趣旨：職員研修の一環として、区職員が新たな発想、幅広い知識を学び、政策形成能力を向上させることを目指す。

参加者：区職員等（区長含む）81人（うち研究所は金安所長、針谷担当部長、宮端副所長、牧瀬アドバイザー、研究員4人）

内容：家族や学校、職場からこぼれ落ち、働けない若者が増加しており、こうした孤立する若者の現状と課題、若者の自立支援の新たな方向性等について学んだ。

満足度：参加者アンケートによる講演の満足度は、「満足」と「まあ満足」を合わせて81%

(3) 区政モニター会議

日時：2013（平成25）年5月28日（火）14時45分～15時30分

会場：新宿歴史博物館会議室

趣旨：区政モニターに新宿区の基礎的な情報を提供する。

説明：宮端副所長（所長、研究員2名同行）

参加者：区政モニター47人

内容：区政モニターに研究所レポート2012（一部コピー）を配付し、新宿区の人口・世帯に関する現状、課題、将来見通しなどを説明した。

(4) 新任職員向け研修

日時：2013（平成25）年4月25日（木）11時～11時30分

会場：新宿文化センター3階小ホール

趣旨：新任職員に新宿区の基礎的な情報を学んでもらう。

講師：宮端副所長

参加者：区職員（新任職員）112人

内容：研究所レポート2012（一部コピー）を配付し、新宿区の人口・世帯に関する現状、課題、将来見通しなどを説明した。

(5) 公共マーケティング研修

日時：2013（平成25）年12月17日（火）9時～17時

会場：第一分庁舎6階研修室

趣旨：職員研修の一環として、区職員に政策形成、事業計画、事業実施に必要な考え方を学んでもらう。

講師：牧瀬政策形成アドバイザー

参加者：13人

内容：区職員の政策形成能力向上に向けて、研究所アドバイザーが区民ニーズリサーチの方法やニーズ分析、政策課題等について区職員に演習した。

(6) 現任中級研修

日時：2013（平成25）年11月11日（月）～12日（火）、12月3日（火）～4日（水）、
12月10日（火）～11日（水）

会場：第一分庁舎6階研修室

趣旨：職員研修の一環として、中堅職員にその立場と役割を認識し、集団で仕事をしていくうえで重要なコミュニケーション能力のスキルアップを図ってもらう。

講師：牧瀬政策形成アドバイザー

参加者：118人

内容：区職員の政策形成能力向上に向けて、研究所アドバイザーが問題解決までのプロセスと中堅職員の役割や全国の特徴的な条例について区職員に演習した。

3 SHIPS通信の発行

(1) 趣旨

職員に研究所の活動を周知するため、情報発信誌「SHIPS通信」を発行した。

(2) 各号の主な内容

第13号：2013（平成25）年8月発行

- ・本年度の研究内容とインタビュー協力のお祝い
- ・研究所スタッフの紹介
- ・24年度の研究報告
- ・第1回職員向け講演会の開催結果
- ・SHIPS サロンの開講のお知らせ
- ・研究所所蔵図書を活用推進
- ・SHIPS サロンの開講と年度計画
- ・24年度のSHIPS サロンの活動

第14号：2014（平成26）年3月発行

- ・新宿区自治フォーラム2014開催のお知らせ
- ・研究所報告2013の概要
- ・第2回職員向け講演会の開催結果
- ・25年度のSHIPS サロンの活動

4 SHIPSサロンの開催

本サロンは、区職員の政策形成能力の向上を目的とする職員の自主勉強会であり、5年目となった今年度は、主に「社会貢献的活動」をテーマに、民間企業、NPO、官公庁で活躍されている方を外部講師として招き、また他自治体や民間団体の職員も参加して意見交換を行うことで、公務員の枠を超えた発想の仕方、ものの見方を学ぶことができ、ネットワークづくりにも役立つ場となった。

第1回

日時：2013（平成25）年8月30日（水）18時00分～20時00分

会場：第一分庁舎6階研修室

参加者：区職員等19人（うち研究所は宮端副所長、牧瀬アドバイザー、研究員4人）

テーマ：「自治体職員のチャレンジ精神」と今年度の進め方について

講師：研究所政策形成アドバイザー 牧瀬 稔氏

内容：牧瀬アドバイザーをファシリテーターとし、自治体職員としてどうチャレンジ精神を発揮していくべきか等について意見交換を行うとともに、今年度の進め方を話し合った。

第2回

日時：2013（平成25）年9月25日（水）18時～20時

会場：第一分庁舎6階研修室

参加者：区職員等25人（うち研究所は宮端副所長、牧瀬アドバイザー、研究員3人）

テーマ：「次の世代を担う子どもたちを育てたい～社会派児童アニメの制作現場から」

講師：(株)マジックバス代表 出崎 哲氏（映画監督）

内容：アニメ監督の出崎氏を講師に招き、映画制作現場でのクリエイターとしての困難さや次世代を担う子どもたちへの想いについて話を伺い、意見交換を行った。

第3回

日時：2013（平成25）年10月30日（水）18時～20時

会場：第一分庁舎6階研修室

参加者：区職員等18人（うち研究所は宮端副所長、牧瀬アドバイザー、研究員4人）

テーマ：「歌舞伎町による先駆的な取組みの現場から学ぼう！～歌舞伎町におけるタウン・マ

ネジメントの現状と課題」

講 師：歌舞伎町タウン・マネジメント事務局 仁階堂 拓哉氏

内 容：歌舞伎町で官民連携した活動をされている仁階堂氏を講師に招き、活動を行うにあたっての課題や目指すところ等について話を伺い、意見交換を行った。

第4回

日 時：2013（平成25）年12月18日（水）18時～20時

会 場：第一分庁舎6階研修室

参加者：区職員等23人（うち研究所は金安所長、宮端副所長、牧瀬アドバイザー、研究員4人）

テーマ：「今、世界で何が起きているのか？～軍事占領下のパレスチナ：中東情勢と国連の人権活動」

講 師：国際連合人権高等弁務官事務所パレスチナ被占領地区副事務所長 高橋 宗瑠氏

内 容：国連で活躍されている高橋氏を講師に招き、紛争が続くパレスチナ地区での人権侵害の現実や解決にあたっての課題等について話を伺い、意見交換を行った。

第5回

日 時：2014（平成26）年1月22日（水）18時～20時

会 場：第一分庁舎6階研修室

参加者：区職員等14人（うち研究所は金安所長、宮端副所長、牧瀬アドバイザー、研究員4人）

テーマ：「素人による憲法談義～金安所長を囲んで」

主 宰：金安所長（進行：牧瀬アドバイザー）

内 容：金安所長を囲み、自治体職員にも関係する憲法について、職務上を含めた様々な観点からディスカッションを行った。

第6回

日 時：2014（平成26）年2月12日（水）18時～20時

会 場：第一分庁舎6階研修室

参加者：区職員等13名（うち研究所は金安所長、宮端副所長、研究員4人）

テーマ：「地域魅力のまちづくり」

講 師：NPO法人地域魅力 理事長 田中 美乃里氏

内 容：藤沢市との協働事業などのNPO活動をされている田中氏を講師に招き、自治体との協働事業をする上での困難さ、メリット、今後の展望等について話を伺い、意見交換を行った。

5 学会等への参加

（1）警察政策学会公開フォーラム

日 時：2013（平成25）年5月22日（水）13時30分～17時

場 所：グランドアーク半蔵門

テーマ：「17年後のわがまちはどうなる？～超超高齢化時代（2030年）へ向けての安全・安心社会の創造」

内 容：人間総合科学大学の柴田博教授やシニアライフデザイン代表の堀内裕子氏などの講演や討論を伺い、これからの高齢化時代の安全・安心をめぐる諸課題について学んだ。

参加者：研究員4人

（2）日本学術会議・労働政策フォーラム

日 時：2013（平成25）年7月13日（土）13時30分～17時30分

場 所：東京国際交流館国際交流会議場

テーマ：「アンダークラス化する若年女性」

内 容：中央大学の山田昌弘教授、首都大学東京大学院の江原由美子教授などの講演、パネル・ディスカッションを伺い、若い女性に起こっている労働や家族形成における自立の危機について学んだ。

参加者：研究員 4人

(3) 日本都市計画学会・学術研究論文発表会

日 時：2013（平成25）年11月10日（日） 9時30分～12時

場 所：法政大学市谷田町校舎

論 文：「将来の住宅供給を考慮した地域人口推計手法」

内 容：研究所の研究成果をベースにした将来人口推計にかかる論文を日本都市計画学会で発表し、研究成果を広く発信した。

参加者：丸山研究員

(4) 日本学術会議公開シンポジウム

日 時：2013（平成25）年12月20日（金）13時～18時

場 所：日本学術会議講堂

テーマ：「人口減少と日本社会－ライフコース・社会保障・地域経済の行方－」

内 容：国立社会保障・人口問題研究所副所長の金子隆一氏などの講演、パネル・ディスカッションを伺い、人口減少と高齢化が日本に与える影響について学んだ。

参加者：丸山研究員

6 他自治体との交流

(1) 第6回特別区シンクタンク等交流会

日 時：2013（平成25）年7月4日（木）15時～17時

場 所：東京区政会館

内 容：各区シンクタンク等の活動状況や調査研究テーマ、調査研究における諸課題等についての情報交換・意見交換を行った。（世田谷区、北区、港区、荒川区、新宿区、特別区協議会が参加）

参加者：田中研究員、岸田研究員

7 新宿区自治フォーラム2014

日 時：2014（平成26）年3月22日（土）13時30分～16時30分

場 所：新宿文化センター3階小ホール

テーマ：「変わりゆく地域社会における人や地域とのつながり」

内 容：①研究成果発表

中山区長の挨拶の後、宮端副所長が研究レポートにより「新宿区の単身世帯の特徴」の概要説明を行い、次いで平井企画政策課長が区民意識調査結果を基に「新宿区の自治の推進」について説明した。

②講演1

「単身化する社会が問いかけるもの」をテーマに、研究所アドバイザーであり家族社会学、青年社会学の専門家である宮本みち子放送大学教授が講演を行った。宮本教授は、「新宿区は一人暮らしをしやすい環境にあり、高齢期だけでなく壮年期でも単身化、未婚化が進んでいる。個人化、無縁化が進み、サポート源としての家

族がない社会的に孤立する人々が増えてくる。特に男性は友人との情緒的関係を形成しにくく、孤立しやすい。家族的な関係性をどう担保していくかが課題である。」といった話をされた。

③講演 2

「今、地域に必要な『ゆるやかなつながり』をテーマに、都市社会学、地域社会学の専門家である玉野和志首都大学東京教授が講演を行った。

玉野教授は、「地域活動を活発に行っている人と、地域と全く関わりなく暮らしている人との間のつながりが薄れてきた。地域力を高めるためには、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）に注目すべきであり、例えば、いざという時に頼りになるかもしれないから挨拶を交わす、といった日常的な努力が実は効果的である。広く緩やかな基本的なつながりの維持ということを町会・自治会だけではない形で考えていく必要がある。」といった話をされた。

④パネル・ディスカッションと会場との意見交換

金安岩男研究所長をコーディネーターとし、「変わりゆく地域社会における人や地域とのつながり」をテーマに、宮本教授、玉野教授に加え、都市人口学の専門家である大江守之慶應義塾大学教授、中里町町会長で新宿区町会連合会副会長である中村廣子氏、平井企画政策課長によるパネル・ディスカッションを行った。大江教授は「何か共通のものを媒介にしながら、フラットで新しい関係性をつくっていくことが重要」、中村氏は「一人ひとりが地域に関心を持ち、参画し、共感を持って他者を見ることのできる社会にしたい」と話され、最後に会場との意見交換を行った。

参加者：区民等 95 人

満足度：参加者アンケートによる講演の満足度は、「満足」と「まあ満足」を合わせて 98%

8 マスメディアへの掲載等

(1) NHK「おはよう日本」での放映

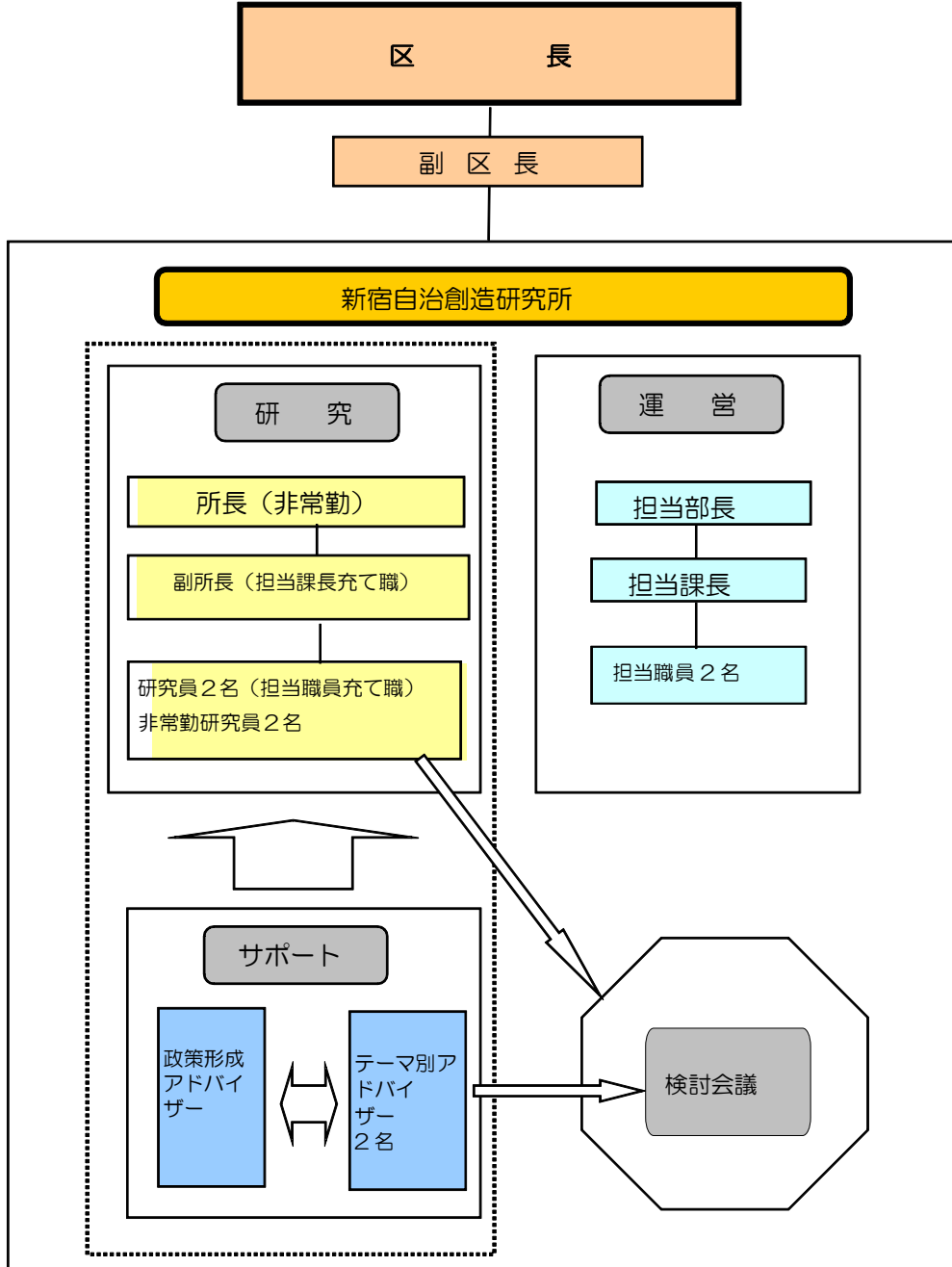
日時：2013（平成 25）年 11 月 14 日（木）7 時 20 分～7 時 30 分

「加速する未婚社会にどう備える」をテーマにした朝の報道番組で、「未婚化が深刻化し、15 歳以上男性の 50%、女性の 42%が未婚者である新宿区で未婚者を対象に異例の聞き取り調査を開始し、結婚しない様々な理由が聞かれた」（注：正しくは、壮年期の単身者を対象とした結婚観を含めた暮らしや人とのつながりについてのヒアリング調査）ということで、研究所の単身世帯WG 検討会議の様子やヒアリング調査の再現、宮本アドバイザーのコメント等が放映された。



9 資料

組織図



〔役割〕

- ・所長 …研究の統括
- ・副所長 …研究所内の事務的管理
- ・政策形成アドバイザー…研究全体の進捗管理、アドバイス
- ・テーマ別アドバイザー…各テーマの方向付け、アドバイス
- ・担当部長、担当課長…研究所に関する事務

研究体制

役職名	氏名	資格・専門等	役割	
担当部長 (兼務)	針谷 弘志	総合政策部長	担当部事務総括	運 営
担当課長 (兼務)	宮端 啓介	総合政策部副参事	担当課事務総括	
所長	金安 岩男	慶応義塾大学名誉教授 専門分野：地理学、計画実践論、 プロジェクト発想法	研究の統括	研 究
副所長	宮端 啓介	担当課長	研究所内の事務 的管理	
主任研究員	田中 雅美	研究主査	研究・調整	
研究員	岸田 瞳	主任主事	研究・庶務	
非常勤研究 員 (50音順)	栗田 健一	博士(経済学) 専門分野：地域経済論	研究・調査	究
	丸山 洋平	博士(学術)慶応義塾大学大学院政策・メ ディア研究科特任助教 専門分野：人口学、人口移動研究	研究・調査	
政策形成 アドバイザー	牧瀬 稔	一般財団法人地域開発研究所主任研究員 法政大学大学院公共政策研究科兼任講師 博士(人間福祉) 専門分野：地方自治、地域政策、行政学	研究全体の進捗 管理、アドバイ ス	サ ポ ー ト
テーマ別 アドバイザー (50音順)	大江 守之	慶応義塾大学総合政策学部教授 博士(工学) 専門分野：都市人口学、都市・住宅政策	テーマ研究の指 導、アドバイス	
	宮本 みち子	放送大学教養学部教授 博士(社会学) 専門分野：家族社会学、青年社会学		